

2018年2月期 決算説明会資料

サインポスト株式会社



2018年 4月17日

目次

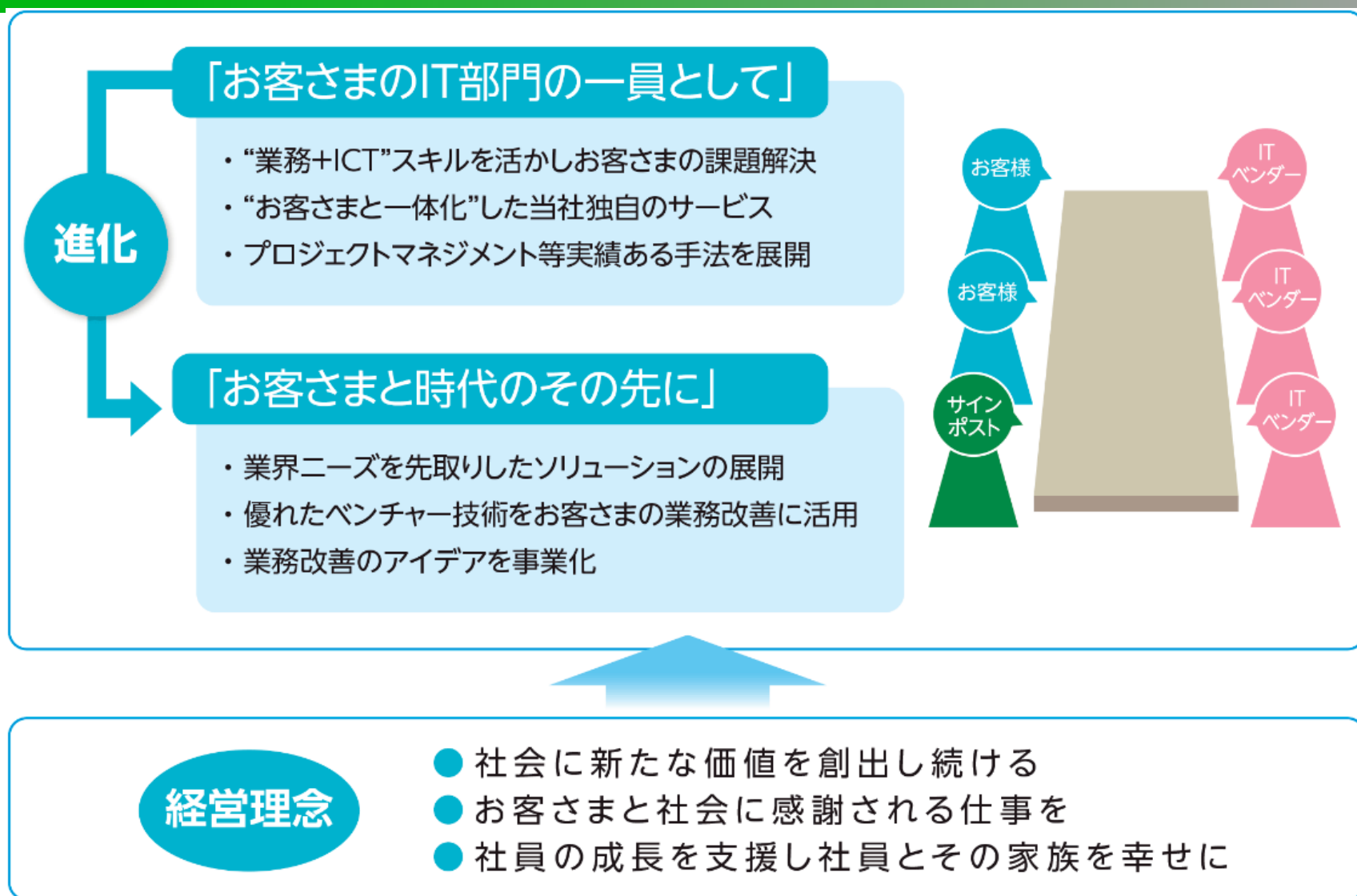
1. 会社概要
2. 業績説明
3. これからの取組み
4. 業績予想

1. 会社概要

1-1. 会社概要

会社名	サインポスト株式会社 Signpost Corporation
所在地	【本社】 〒103-0001 東京都中央区日本橋本町4-12-20 PMO日本橋本町6F 【関西支社】 〒540-0026 大阪府中央区内本町二丁目4番16号 オフィスポート内本町11F 【沖縄支社】 〒900-0012 沖縄県那覇市泊2-1-18 T&C泊ビル6F
設立	2007年3月1日
代表者	代表取締役社長 蒲原 寧（かんばら やすし）
資本金	352,938千円
社員数	88名 2018年2月28日現在 （コンサル事業：62名、ソリューション事業：11名、イノベーション事業：9名、コーポレート本部：6名）
認定	・プライバシーマーク認定企業 第11820624(01)号 ・ISO27001／ISMS認定企業 JP12/080214本社 ・（公財）暴力団追放運動推進都民センター 賛助会員
企業理念	『 ご満足いただけるソリューションを提供、社会の一隅を照らす存在でありたい 』 ・社会に新たな価値を創出し続ける ・お客さまと社会に感謝される仕事を ・社員の成長を支援し、社員とその家族を幸せに

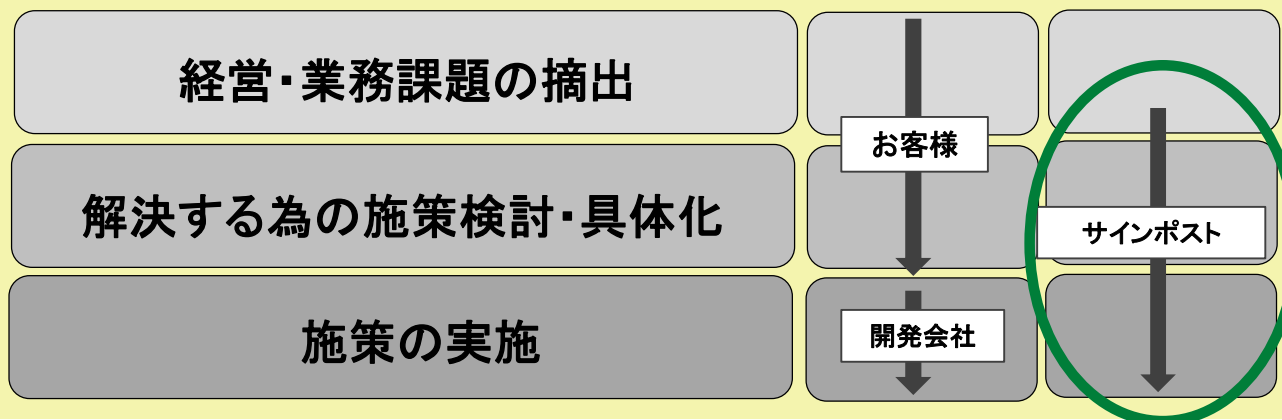
1-2. 事業の概況



1-3. 事業の概況

「お客様のIT部員の一員」として

<サインポストの作業範囲>



<サインポストの事業>

(1) コンサルティング事業 ⇒ 高度な業務・業界知識で課題解決

(2) ソリューション事業 ⇒ 先端ICT技術を活用し課題解決

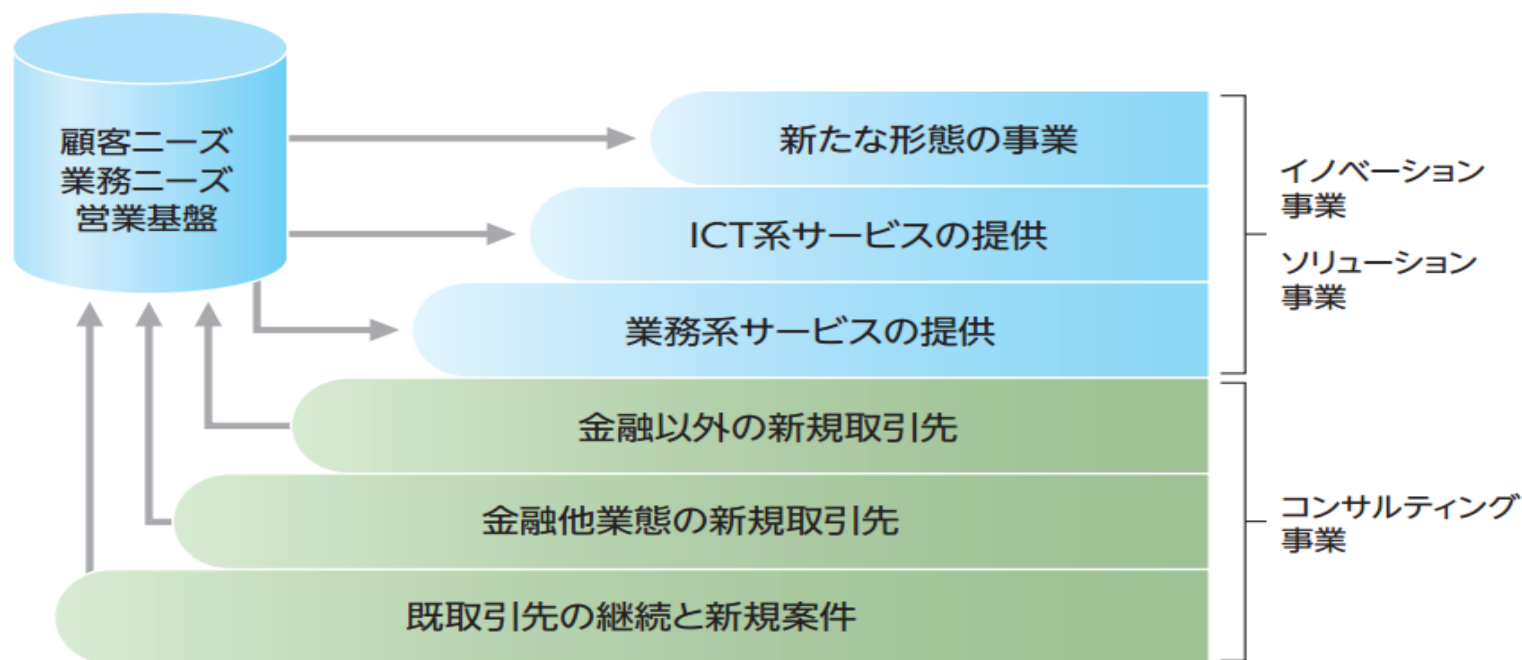
(3) イノベーション事業 ⇒ A.I.技術を研究開発し課題解決

1-4. 事業説明

事業全体の構造

当社の事業は、「コンサルティング事業」、「ソリューション事業」、「イノベーション事業」の三つの事業セグメントから成り立っており、会社全体としては、各事業が相互に関連性を持ちながら展開をしていく事業構成になっております。

コンサルティング事業による安定的且つ成長性のある事業運営をベースとして、コンサルティング事業で培った顧客ニーズや業務ニーズ及び営業基盤を活かしながら、新たなサービスの提供や他業態に対してサービスを提供するソリューション事業とイノベーション事業を展開しております。



1-5. 事業説明

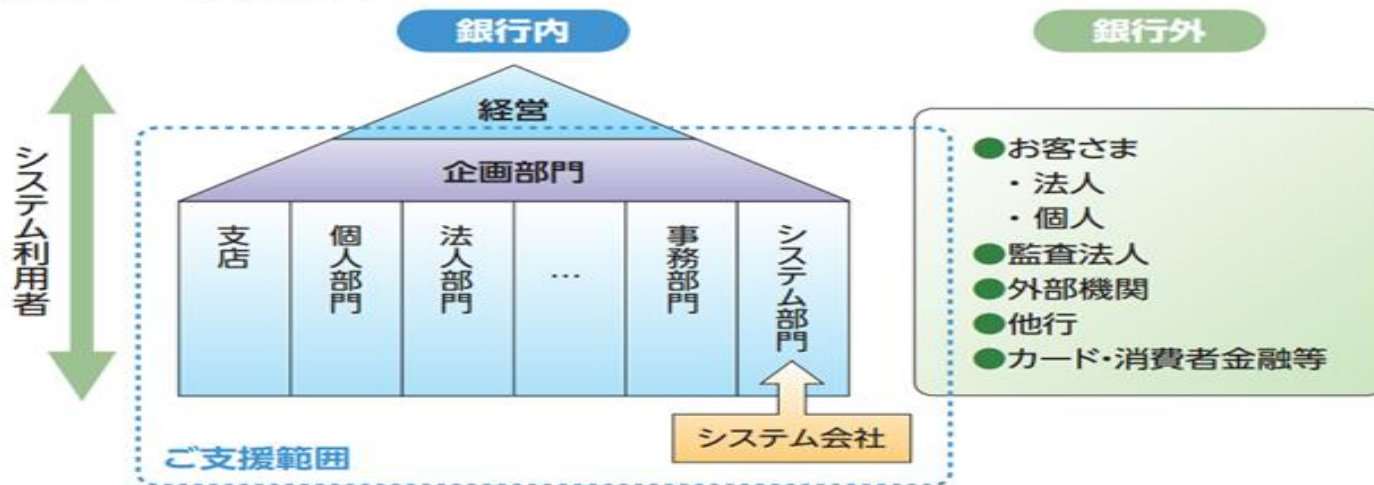
(1) コンサルティング事業

当社のコンサルティング事業は、社会インフラであることから情報システムに対する品質への要求水準が一般企業と比べて高い金融機関及び公共機関向けに業界を絞り、専門性を高めたサービスを展開しております。

当社は、第三者的な立場ではなく顧客企業の組織の一員(=当事者)として、情報化戦略、システム化構想、業務改善等を提案し、システムの企画・設計・開発・運用の実行支援やマネジメント支援を通じて、問題解決まで主体的に対策を実行する点に特徴と優位性があると考えており、顧客企業の課題解決に貢献しております。

また、当社はシステム部門のみならず、顧客企業の経営や各業務部門から顧客企業外の関係者の対応まで幅広く支援することで顧客企業の課題を本質的に解決し課題解決に必要な全領域を幅広く支援することから、数年間に渡って取引を継続する顧客先が存在しております。

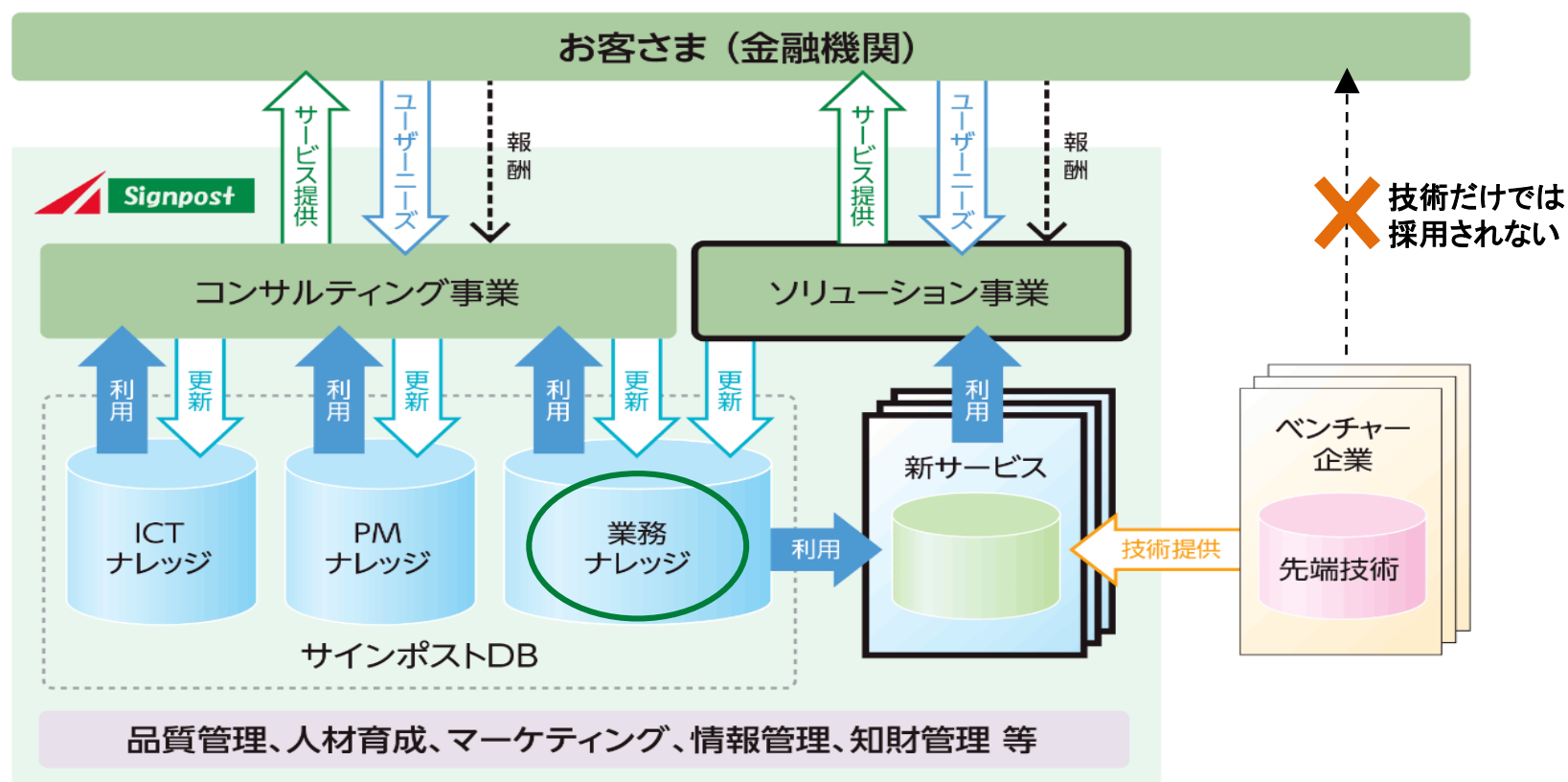
当社のご支援範囲



1-6. 事業説明

(2) ソリューション事業

当社が把握している顧客の抱える業務的な問題・課題を解決するために、コンサルティング事業で培った業務ナレッジとベンチャー企業が有している先端技術を応用し新たなソリューションを開発、提供しております。

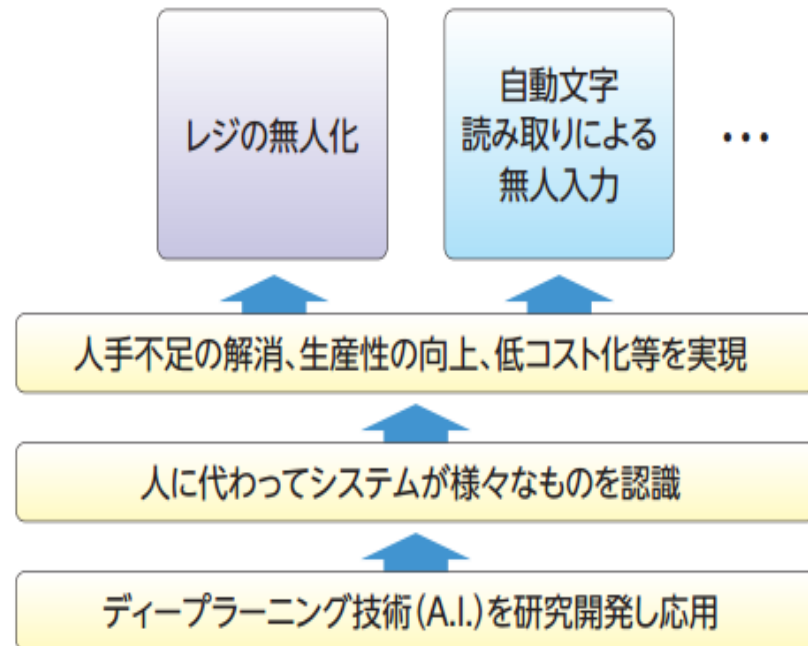


1-7. 事業説明

(3) イノベーション事業

当社は、AI技術を用いて様々な社会問題を解決するため「お客さまのIT部門の一員」として、従来の金融機関及び公共機関にとどまらないイノベーション事業に取り組んでおります。

Wonder Register™ ー世界初 A.I.搭載レジスター



2. 業績説明

2-1. 業績説明 前期比

(単位:百万円)		2017年2月期	2018年2月期	前期比 増加率
売	上 高	1,723	3,024	75%
	コンサルティング事業	1,713	2,109	23%
	ソリューション事業	9	832	9144%
	イノベーション事業	—	83	—
営	業 利 益	171	370	115%
経	常 利 益	166	357	114%
当	期 純 利 益	106	245	130%

2-2. 販売費及び一般管理費 前期比

(単位:百万円)	2017年 2月期	2018年 2月期	増減額	主な増減内容
人件費	162	158	▲4	調整分
支払手数料	10	18	+8	上場準備に伴う増加
支払報酬	18	22	+4	上場準備に伴う増加
租税公課	6	16	+9	外形標準課税適用による増加
研究開発費	63	129	+65	研究開発の進捗による増加
その他	133	143	+9	地代家賃等
販売費及び 一般管理費 計	394	488	+93	

2-3. セグメント別人員推移

		2016年 2月期	2017年 2月期		2018年 2月期	
		期末人員数	期末人員数	増減	期末人員数	増減
コンサルティング事業	社員	55	55	—	62	+7
	ビジネス・パートナー	45	73	+28	112	+39
	合計	100	128	+28	174	+46
ソリューション事業	社員	7	13	+6	11	▲2
	ビジネス・パートナー	—	23	+23	21	▲2
	合計	7	36	+29	32	▲4
イノベーション事業	社員	5	6	+1	9	+3
	ビジネス・パートナー	1	3	+2	5	+2
	合計	6	9	+3	14	+5

3. これからの取組み

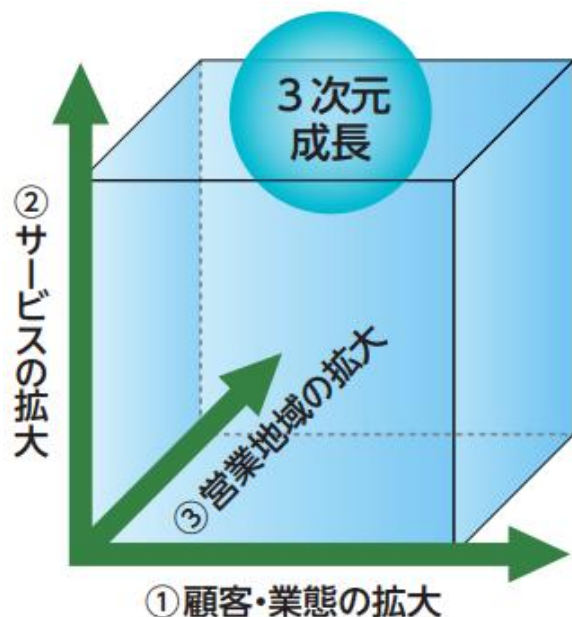
3. 事業全体

事業の特徴・差別化を活かした3次元の事業拡大

当社の成長戦略といたしましては、以下の①～③の三つの方向からなる三次元での成長を志向しております。

基軸となる金融業界内での顧客層を拡大しつつ、その実績を基にした他業態への事業展開を行うこと。また、顧客との継続的なリレーションを活かしてニーズに即した新たなサービスを開発しつつ、業務・業界のニーズを先取りした新サービスの開発を行っております。

営業地域につきましては、国内外へ展開して参ります。



① 顧客・業態の拡大

- ・顧客満足による顧客の増加、リピート
- ・実績を基にした他業態への展開

② サービスの拡大

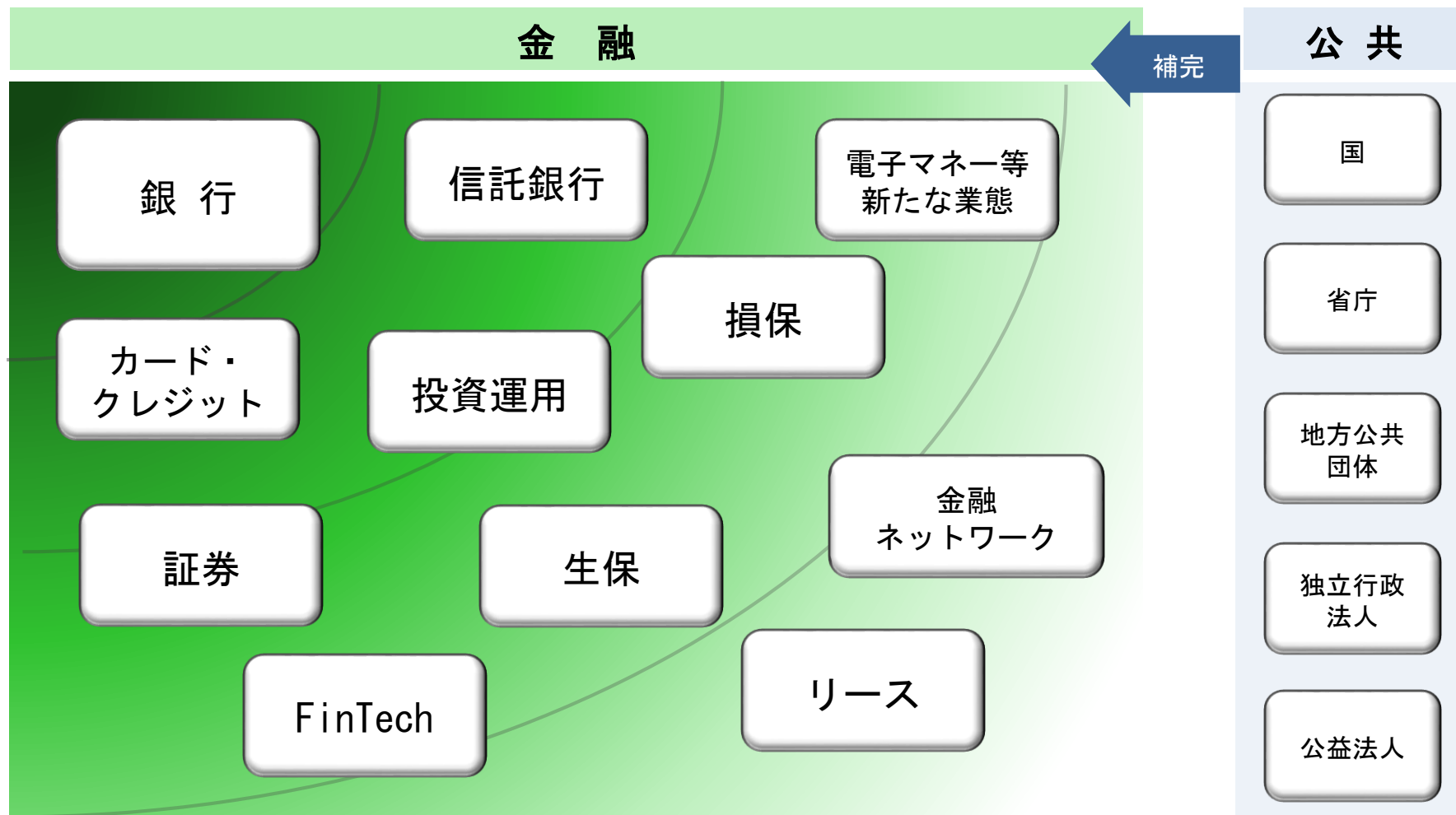
- ・顧客ニーズに適合した独自のサービス
- ・業務・業界ニーズを先取り

③ 営業地域の拡大

- ・国内外への展開

3. (1)コンサルティング事業

今後も金融業態を拡大



3. (2)ソリューション事業

現在提供しているソリューションサービス

・バッチ処理高速化ソリューション(ユニケース)

バッチ処理を5倍から10倍以上高速に処理する技術を提供。

開発生産性も2倍(従来比工数1/2)で、システム保守性を向上。

金融機関様等のお客さまのニーズに合わせたシステム開発を今後も継続。

・事業性評価サービス

地方銀行様等が担保等に依存することなく、各企業の成長可能性を評価し、融資等を実行するための支援として、導入実績のある事業性評価モデルを採用し効果を発揮。

現在同サービスは10行に採用されており、地方企業の発展に寄与。

今後の事業展開

⇒ これまでは紹介による受動的な新ICT技術の発掘に止まっていたが、今後は国内外にアンテナを張り当方から能動的に新技術を探す計画。

このことにより多くの新ICT技術と出会う機会を増加させ、当社の業務知識を活用し、ソリューションを創り出すことで、これまで以上に様々な業務課題の解決を企図。

3. (3)イノベーション事業 全体説明

ディープラーニングによる画像認識技術を有する当社独自の「SPAI」を、様々な分野の人手不足解消や生産性向上に活用

- ・流通・小売のレジ
- ・自動文字読み取り
- ・顔認識、追跡
- ・農業への応用 等

更に、これまで取得が困難であった様々な情報の収集・解析により、マーケティングを高度化しビジネスの発展に寄与

3. (3)イノベーション事業

(ア)ワンダーレジ、スーパーワンダーレジ

(イ)自動文字読み取り

(ウ)顔認識、人追跡技術

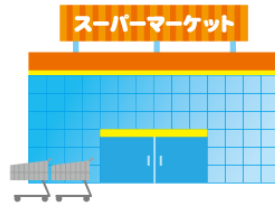
(ア)ワンダーレジ 利用シーン①



コンビニエンスストア

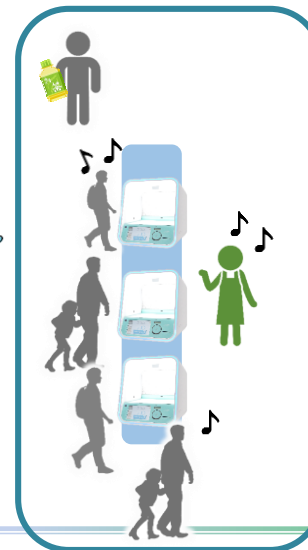
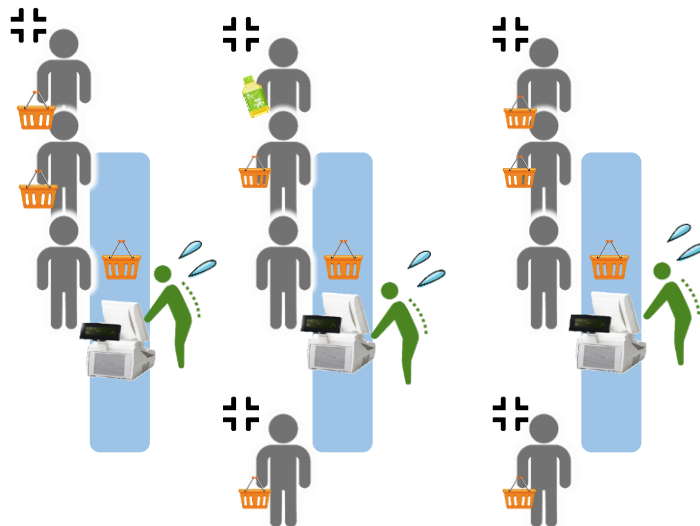
- ・人手不足解消・人員コスト減
 - レジ店員減
 - 朝・昼ピーク時増員不要
 - 夜間帯無人化
- ・買い物待ち行列解消・機会損失改善

(ア)ワンダーレジ 利用シーン②



スーパーマーケット(エクスプレスレーン)

- ・少量購入客の機会損失改善
- ・買い物待ち時間短縮



【エクスプレスレーン】

5品以内のお買物は
ワンダーレジへ

(ア)ワンダーレジ 利用シーン③



職域内小規模店舗(オフィス、工場 等)

- 利便性の向上
- 福利厚生の充実
- 販売時間の延長
- 売店人件費削減



(ア)ワンダーレジ 利用シーン④



アミューズメント施設

- ・新しい買い物体験(子供が使って喜ぶ)



駅売店

- ・人手不足・待ち行列・機会損失解消
- ・電車の待ち時間内で素早く買い物

(ア)ワンダーレジ 利用シーン⑤



空港内売店

- ・人手不足・待ち行列・機会損失解消
- ・飛行機の待ち時間内で素早く買い物



道の駅、高速サービスエリア

- ・人手不足・待ち行列・機会損失解消
- ・特産品などバーコードの付いていない商品の買い物

(ア) スーパーワンダーレジ 利用シーン①



スーパーマーケット

ディスカウントストア

ドラッグストア



- ・ 人手不足・待ち行列・機会損失解消
- ・ 買い物客の不正による財務ロス抑止



(ア) スーパーワンダーレジ 利用シーン②



コンビニ、駅ナカ等の売店

- ・人手不足・待ち行列・機会損失解消
- ・出店ハードルの引き下げ
- ・電車の待ち時間内で素早く買い物

(ア) 製品の優位性

【ワンダーレジ】

- バーコードが無く、RFIDも貼り付けられない生鮮食品や新聞なども認識可能
- 複数商品を一括認識
- 年齢・性別を推定



【スーパーワンダーレジ】

- 特定の会員以外も利用可
- リアルタイム決済、複数の決済手段に対応
- 店内買い物客の行動データを解析、店舗作り改善へ



(ア)販売形態について

【本体販売形態】

- 売り切り
- 月額利用料でのご利用3～5年契約

【本体以外の販売・サービス】

- 初期登録（センターにて一括登録）
- 新商品登録の継続的登録
- NB（全小売共通）、PB個別
- ハード・ソフトの機能アップおよび保守
- 20才以上の年齢認証等のリモート端末
- 必要に応じて決済手段を拡充
- 年代・性別毎の売れ筋商品把握、店内行動分析によるマーケティングデータの収集・提供

3. (3)イノベーション事業

(ア)ワンダーレジ、スーパーワンダーレジ

(イ)自動文字読み取り

(ウ)顔認識、人追跡技術

(イ) 自動文字読み取り技術

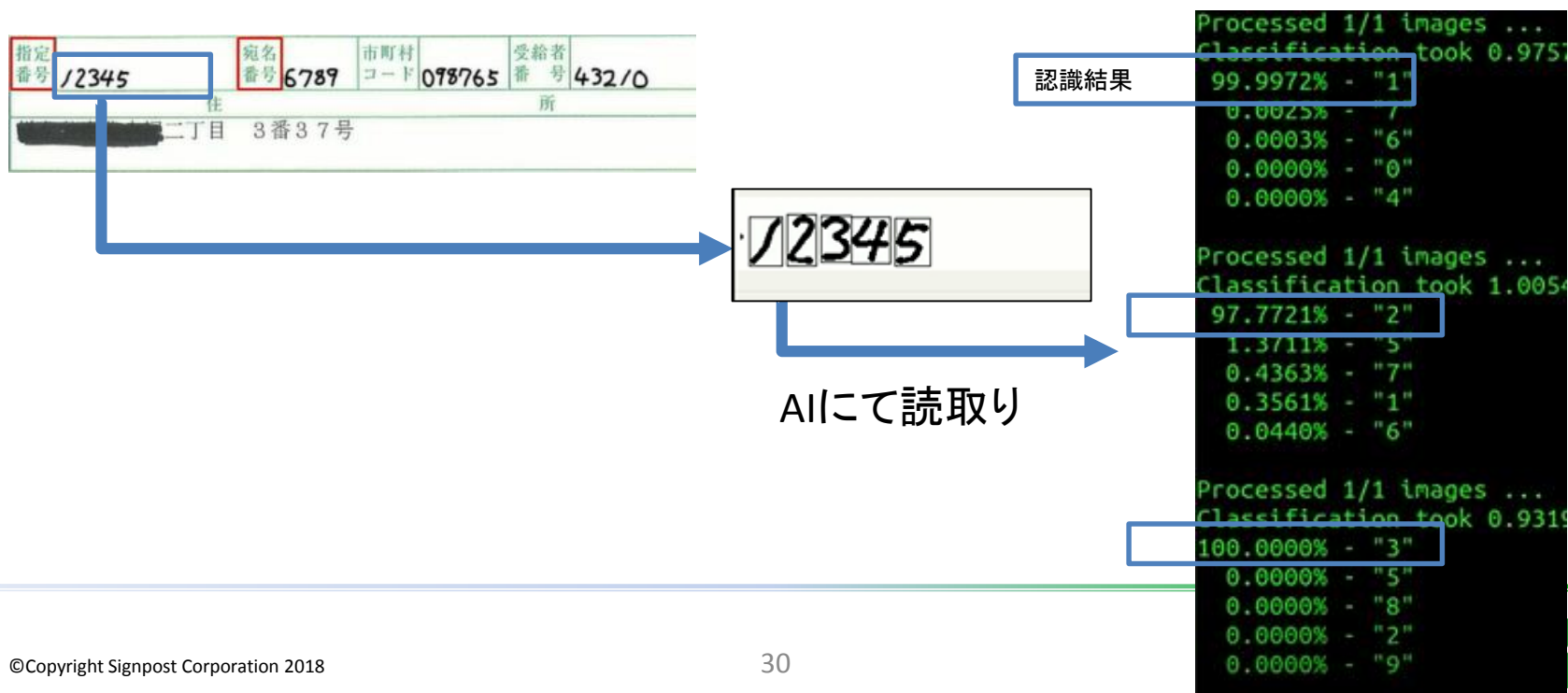
(1) 機能

「SPAI」を応用して、数字、漢字、かな、記号等をコンピューターが自動で読み取る技術を開発。

(2) 用途等

OCR(光学文字認識)が誤認識する手書き文字や、自治体によってフォーマットが異なり解読できない帳票等を「SPAI」が自動認識することで、手作業で入力している事務を省力化。

⇒クレジットカード会社や銀行事務センター等での入力業務の自動化など検討中。



3. (3)イノベーション事業

(ア)ワンダーレジ、スーパーワンダーレジ

(イ)自動文字読み取り

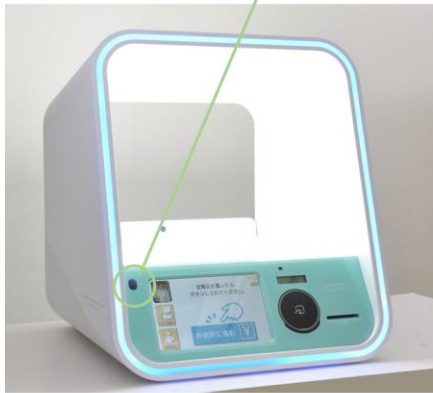
(ウ)顔認識、人追跡技術

(ウ) 顔認識、人追跡技術

前述以外の様々な分野において「SPAI」が有する顔認識技術、人追跡技術及び物体認識技術の活用を検討中。

Age & Gender recognition.

face detection camera.



age: 30 - 39
gender: male



4. 業績予想

4-1. 取組み方針

- ◇ 金融機関を中心としたコンサルティング事業は、幅広いニーズに応え引続き着実に成長させる。
- ◇ ソリューション事業、イノベーション事業については、現在がディープラーニングの技術革新期であることより、今後の飛躍的成長を見据えイノベーション事業に傾注。
- ◇ イノベーション事業に関しては、事業展開を加速するため、自社内の体制強化や、製品開発および利用各社との提携を推進。

4-2. 業績予想

(単位:百万円)		2018年2月期	2019年2月期	前期比 増減率
売上高		3,024	3,126	3%
	コンサルティング事業	2,109	2,410	14%
	ソリューション事業	832	508	▲38%
	イノベーション事業	83	208	150%
営業利益		370	401	8%
経常利益		357	398	11%
当期純利益		245	258	5%

本資料の取扱いについて

本資料は、サインポスト株式会社の事業及び業界動向に加えて、当社による予定、見込み、予想に基づいた将来の展望についても言及しております。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確実性を含んでおります。既知或いは未知のリスク、不確実性、その他要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。

今後、将来の出来事や状況を反映して、将来の展望に関するいかなる表明の記載内容の更新・修正の義務を負うものではありません。

孫の代まで豊かな日本を

